

公益社団法人化学工学会
粒子・流体プロセス部会 第2回臨時幹事会 議事録

日時：2022年10月21日（金）～10月29日（土）

場所：電磁的議事（メール会議）

出席者：寺坂（議長）、太田、仁志、藤本、鈴川、押谷、松隈、三角、長津、立元、安藤、岩崎、伊奈、坂倉、島田、古川、藤岡、部会事務局

欠席者：桑木、春藤 以上、敬称略

議題

<確認事項>

以下1と2の議題について確認されました。

1. 前回第1回定例幹事会（2022年9月20日）議事録の確認（資料1）
2022年9月25日にメールで配信済です。

2. 分科会運営細則の改正案

2022年9月20日開催の第1回定例幹事会において分科会運営細則の見直しが検討された。運営細則の改正については2023年3月に行う第2回定例幹事会で承認後、同3月の部会総会で承認し、改正したい。

<協議／承認事項>

以下1の議題について全員より承認されました。

1. MMPE2025の部会の主催化（資料2）（気液固分科会代表・松隈）
これまでに気液固分科会主催で4回の実績のあるMMPE(International Symposium on Multiscale Multiphase Process Engineering)が2025年に松江で開催される。これまでの実績から気液固分科会のみならず他の分科会にもまたがる内容であることから、第5回MMPEは本部会での主催（世話役は気液固分科会）が提案された。

以下2の議題について全員より承認されましたので基金化手続きを進めます。

2. 部会資産（非基金化資産）の基金化について（資料3）（部会長・寺坂）
2023年度より、部会非基金化資産（分科会非基金化資産含め、現状317万円※）の大部分が本部に移管されて本部会では使用できなくなり、2023年度以降は部会による新規基金化も禁止されることが2022年10月21日の化学工学会理事会で承認されました。しかし2022年度中に本部会の非基金化資産の基金化が進めれば、これらの資金は部会に残り、基金化された部会イベントに使用できます。
そこで、2022年10月5～28日まで新規基金化イベントを募集したところ、下記2

件が提案されました。

- ① MMPE2025 開催費用の一部（2025 年度開催時に使用） **287 万円※**
- ② 部会ホームページ製作費（2023 年度初期費用） 30 万円

※最終的な金額は基金化時点で調整いたします。

<報告事項>

以下の議題 1, 2, 3 について確認されました。

1. 部会協賛イベントの報告

以下のイベントにつきまして問題ないと判断して協賛をいたしました。

- ・ 第 12 回 ファインバブル技術講習会
(主催：日本混相流学会、化学工学会関東支部／会期：2022 年 6 月 16 日)
- ・ 第 56 回化学工学の進歩講習会
(主催：化学工学会東海支部／会期：2022 年 11 月 17, 18 日)
- ・ 分離技術会年会 2022 (主催：分離技術会／会期：2022 年 11 月 17, 18 日)
- ・ 第 59 回粉体に関する討論会
(主催：第 59 回粉体に関する討論会実行委員会／会期：2022 年 12 月 21, 22, 23 日)

2. 3 名のトピックス委員の推薦依頼 (寺坂)

11 月 18 日までに化工誌担当松井氏 (e-mail:matsui@scej.org [03-3943-3527](tel:03-3943-3527)) に回答別途ご依頼いたします。

3. 2023 年度、2024 年度の部会選出の化工誌編集委員の推薦 (寺坂)

11 月 18 日までに化工誌担当松井氏 (e-mail:matsui@scej.org [03-3943-3527](tel:03-3943-3527)) に回答別途ご依頼いたします。

以上

2022年9月25日(日)

公益社団法人化学工学会
粒子・流体プロセス部会 2022年度第1回定例幹事会 議事録

日時：2022年9月20日（火）13:00-14:10

場所：Zoom

出席者（敬称略）：寺坂、島田、坂倉、三角、太田、立元、藤本、安藤、岩崎、伊奈、藤岡、
仁志、松隈、桑木（監事）

欠席者（敬称略）：押谷、鈴川、春藤、古川、長津

議題案

<確認事項>

1. 前回臨時幹事会（2022年7月25日）議事録の確認（資料1）
特に指摘なく確認された。

<協議事項>

1. 粒子・流体プロセス部会 分科会運営細則（第8条、第9条）の見直しについて（資料2）（部会長・寺坂）
部会共通経費の運用実態に合うよう分科会運営細則（第8条、第9条）の改正が部会長より提案された¹。質疑の後、後日さらに質問があれば次回幹事会までに部会長に連絡することとなった。次回幹事会で了承されれば、次回の粒子・流体プロセス部会総会の承認をもって細則の改正を行うこととなった。

表1 分科会運営細則の現状と改正案

分科会運営細則（現状）(抜粋)	分科会運営細則 改正案（赤字部分）
第8条 分科会活動は部会からの分科会分配金と分科会が企画する事業の収入などによって行う。	同左
2. 分科会は部会事務局より部会費（本部からの部会交付金および部会事務局が徴収する部会会員の会費）の25%を差し引いた残額をさらに分科会員の数で按分した額を分科会分配金として支給される。	2. 分科会分配金は、部会費（本部で控除された手取り部会交付金）から部会事務局費を差し引いた残額を、各分科会会員数による按分額として支給される。
3. 会員が複数の分科会に参加を希望した場合は、参加する分科会に会費を按分する。	3. 会員（部会特別会員 A、B、法人特別会員を除く）が複数の分科会に参加を希望した場合は、参加する分科会に会費を按分する。

¹ 上位規約の「粒子・流体プロセス部会規約」も改正したいですが、先に細則から実施を検討する。

4. 新規分科会は、立ち上げ後 3 年間、その分科会が負担すべき部会運営費の免除を受けることができる。	削除
5. 分科会決算が欠損を出した場合、分科会は借用願及び返済計画を幹事会に提出し、その議を経て、部会会計より借り入れを行うことができる。ただし、借り入れが二期以上にわたる場合、当該問題の処置は総会の議を経て行う。	項番号繰り上げ
第 9 条 分科会はその個別事業の収益の 10% を、各事業の終了時に、部会事務局に納める。	削除
2. 部会事務局はそれをプールし、化学工学会本部への上納金に当てる。	削除
3. プール金と本部上納金の差額は、部会全体の活性化を念頭に入れて、部会幹事会で検討の上、部会会計に繰り込む。	削除
(付則)第 11 条 本細則は 2003 年 3 月 23 日より施行する。	条番号繰り上げ 本細則は 2023 年 3 月 23 日より施行する
2. 分科会が行う行事の収益から部会運営のために上納する金額の割合(10%)については、部会発足の 2 年後に見直すこととする。	削除

分科会運営細則と運営実態との間には下記の乖離が発生してはいますが、幹事会の合意として運用しています。

- ① 本部は部会交付金から「HP サーバー使用料と部会負担金」が自動的に天引き
- ② 部会事務局は部会費から「部会共通経費」と「控除済みの部会費の 25%」を部会事務局配分としている。
- ③ 部会に納められた黒字分科会の収益の 10% の用途を、本部に上納金に限定すると事務が煩雑になり、これまでの運用でも分離されていない（2020 年度第二回幹事会で一度、規約改正が合意されたが、承認に至っていない）。
- ④ 上納金割合について部会発足以降見直されていません。

そこで運用実態と細則との乖離を是正するために、分科会運営細則の改定を提案します。主な改定は下記の通りです。

- (ア) 部会費を「本部で控除[※]された手取り部会交付金」と定義する。
- (イ) 部会事務局費を「部会費の 25%」を廃止し、各年度の幹事会で内容を承認された固定額として計上し、部会費から控除する。

※ 本部の控除の内訳は

① 本部の部会負担金（前年度の部会黒字収益 10%）

② 部会 HP サーバー利用料

(ウ) “部会特別会員 A、B、法人特別会員 “の会費徴収・経理・管理は、
主たる所属分科会で行うことが本年度臨時幹事会で承認されています。

<承認事項>

1. 2022 年度分科会予算配分について (資料 3) (寺坂部会長)

今年度の予算配分については上記協議事項のとおり、細則と運用実態とに乖離がありますが、来年度一致を目指す前提で、下記の表 2 のとおり幹事会および監事から承認された。

表 2 の説明を以下に記載しておきます。

本年度より、部会費の予算配分に使用する分科会名簿は“当該年度（2022年度）の6月1日付”を使用します。6月2日以降の新規入会者人数は次年度（2023年度）の6月1日に反映させます。2022年6月1日付名簿の各分科会所属会員数（化学工学会会員のみ、つまり非化学工学会員である「部会特別会員A、B、法人特別会員」を除く）を基に、部会費（本部で控除^{*}された手取り部会交付金 632,500円）を②のように分科会に配分します。非化学工学会員である「部会特別会員A、B、法人特別会員」からの会費は分科会で管理しますので部会事務局の予算配分（表 2 の②）には含まれていません。

今年度のみ追加配分③（77,000円）があります。これは昨年度中に入金された「非化学工学会員である「部会特別会員A、B、法人特別会員」からの会費」ですので、昨年度の運用方法に従って分科会に分配した予算です（詳細は資料3）。

以上が承認されましたので②と③の合計④を各分科会の口座に振り込みします。

表 2 2022 年度 分科会配分予算

② 分科会名	②2022年度配分額	③2021年度分追加配分（昨年度配分後の会費収入）	③ 合計
熱物質	56,426円	0円	56,426円
ミキシング	60,218円	20,250円	80,468円
気液固分散	58,748円	9,375円	68,123円
流動層	57,587円	18,750円	76,337円
粉体プロセス	59,521円	9,375円	68,896円
部会事務局費	340,000円	19,250円	359,250円
合計	632,500円	77,000円	709,500円

<報告事項>

下記について、各担当者から報告が行われた。

1. 部会名簿の一本化と化学工学会本部名簿の閲覧&DL (寺坂部会長)
本部名簿の閲覧権限と方法については10月以降の実施となる見込みと報告された。

2. 部会特別会員の取扱いの変更 (寺坂部会長)
前回の臨時幹事会で承認された部会特別会員の取り扱い方法への変更を行うことが報告された。

3. 部会賞進捗状況の報告

- ・シンポジウム賞 (福岡大・鈴川)

受賞者数は事前にメール審議され、下記のように受賞者が提案され、承認された。

1) 奨励賞： 応募者なし

2) プレゼンテーション賞 (計9名)

SY-52：熱物質流体 12名 ⇒ 最大2名

①DB102 電荷を持つ界面活性剤溶液を上昇する気泡への粒子付着

(京大院工) ○(学)仲野真治・(正)谷口貴志・Wibisono Sulistyو・馬場啓輔

②DB121 液物性が間隙幅の狭い連続式テイラークエット流反応装置内の気液スラグ流に及ぼす影響

(神戸大院工) ○(学)清水啓吾・(Tipton)(法)加藤海里・(法)小林知之・(神戸大院工)(正)菰田悦之・

(正)大村直人

SY-53：粉体プロセス 8名 ⇒ 1名

①DD123 噴霧乾燥法におけるバインダー含有スラリー液滴の乾燥過程の評価

(岡山大院自) ○(学)山下大智・(学)青山祐太郎・(正)中曾浩一・(正)三野泰志・(正)後藤邦彰

SY-54：ミキシング 16名 ⇒ 最大3名

①AC319 温度変化を利用した公転自転式攪拌装置の代表せん断速度の算出

(神戸大院工) ○(学)宇都宮孟・(正)菰田悦之・(正)大村直人・(写真化学)高岡文彦・中村友紀

②AC323 トモグラフィックステレオ PIV による羽根旋回領域における速度3成分3次元同時測定

(横国大理工) ○(学)山本菜々穂・(横国大工)(正)三角隆太

③AC317 動力数を指標とした塩凝固プロセスにおける緩凝集体の作製

(神戸大院工) ○(学・技基)岩本陸杜・(正)菰田悦之・(正)大村直人

SY-55：気泡・液滴・微粒子 14名 ⇒ 最大2名

①AB207 バンク構造を有する基板上成膜における薄膜形状と物性値の関連性

(九大院工) ○(学)成重桃花・(正)弘中秀至・(正)深井潤

②AB303 逆コロイド結晶統合型液滴生成装置を利用するバイオポリマー微粒子の調製

(千葉大院工) ○(学)増山将太・(学)逸見るな・佐藤丈流・(正)山田真澄・(正)関実

ST-29：流動層 (部会横断) 9名 ⇒ 1名

①DA308 減圧過熱水蒸気流動層内に挿入した食品原料の乾燥特性に及ぼす前処理の影響

(静大院工) ○(学)橋本裕太・(正)立元雄治

- ・動画賞 (東京農工大・長津)

確認後、メール審査の予定と報告された。

- ・技術賞 (大阪公立大・岩崎)

応募者なしと報告された。

- ・フロンティア賞 (室蘭工大・藤本)

締切は9月末であるが、現在のところ1件の応募のみと報告された。

4. ニュースレター進捗状況 (横浜国大・三角)

本日(9月20日)が締め切りであると報告された。また現在の9月末と3月末のニュースレター発行サイクルでは、記事の内容に対して発行時期が遅れている。そこで、3月末

発行予定号(28号)については年会の1ヶ月前(2月中旬)発行、原稿締め切りを1月末に前倒しし、来年度9月末発行予定号(29号)については秋季大会の1ヶ月前に(8月中旬)発行、原稿締切を7月末とする案が提案され、了承された。

5. 2022年度部会セミナー実施内容および準備内容の確認 (福岡大・松隈、太田副部会長)
現在まだ準備中であると報告された。

6. 「第10回若手研究者・技術者を対象とした工場見学および交流会」準備状況
(出光興産・坂倉、太田副部会長)
原則としてWebによる開催(対面もありうる)で、2023年1月末にライオン、住友化学、出光興産の三社を見学で企画中である。昨年同様に学生の参加を多くしたいと報告された。

7. 2022年度 | 部会CT賞 | 候補者推薦のお願い (寺坂部会長)
前回幹事会でもお願いしたが、引き続き候補者がいれば直接化学工学会にご連絡いただくこととした。

8. 各分科会報告 (各分科会代表)
特記事項、重要事項があれば別途メールで幹事会に連絡していただくこととなった。

9. 部会が所有する資産の次年度本部移管となる可能性の報告 (伊奈幹事)
関西支部長を兼任されている伊奈氏より関西支部には「支部や部会がもつ資産について、年間総支出額の1.5倍を超える部分の学会共通(本部)で管理する財産への移管に関する依頼が来ている」との情報が伝えられた。本部会には本部からまだ連絡がないが、近日同様な依頼があるので本部会の対応を検討すべきとした。

以上

2022/10/05

MMPE2025 の部会主催化の提案

粒子・流体プロセス部会
気泡・液滴・微粒子分散工学分科会 代表
福岡大学工学部 松隈洋介

International Symposium on Multiscale Multiphase Process Engineering (MMPE)は第1回を2011年に金沢で開催した後、2014年ハンブルグ、2017年富山、2022年ベルリン工科大学と計4回開催してきた、多相、他スケールのプロセスエンジニアリングに関するシンポジウムで、毎回の参加者は100人以上であり、日本からも多数の教員、学生や社会人が参加している。

次回、第5回のMMPEは2025年に島根での開催を予定している。従来は日本側の主催を粒子・流体プロセス部会の気泡・液滴・微粒子分散工学分科会として来たが、第5回以降は、粒子・流体プロセス部会の主催に変更して頂きたい、ここに提案するものである。

その理由は、MMPEが多相、他スケールのプロセスエンジニアリングに関する広い分野にまたがっており、気泡・液滴・微粒子のみならず、熱物質流体、ミキシング、流動層、粉体など幅広い分野を網羅しているため、部会主催とした方がふさわしいと考えたからである。また、こうすることにより、部会会員への広報も速やか、かつ簡便に行われると考えられる。

なお、実際の実務は引き続き気泡・液滴・微粒子分散工学分科会が執り行い、他の分科会には極力ご迷惑をおかけしない予定である。

以上のことから、MMPEの粒子・流体プロセス部会主催への変更をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

追加資料【資料3】化学工学会第4回理事会承認事項（抜粋）

2022年度 化学工学会第4回理事会承認事項（抜粋）

支部・部会保有財産額シーリング規約（案）（抜粋）

（シーリングの設定基準）

第2条 支部・部会の保有する財産について、年間総支出額の1.5倍のシーリングを設け、それを超える部分を学会共通（本部）で管理する財産に移管する。

また、シーリングの設定は支部・部会単位として、支部には懇話会等下部組織を含め、部会には分科会等下部組織を含めるものとする。

毎年事業年度終了後、前期末（2月末）の決算値に基づき、以下の計算を行う。

シーリング超過額＝対象財産－（総支出額3年平均×1.5）

千円未満切り捨て

（開始時期）

第5条 2022年度決算（2023年2月28日残高）をベースに2023年7月（交付金の配賦時期）からとする。

（最低保有額）

第6条 対象財産額が1百万円未満の場合は移管の義務を課さない。

（新規の特定費用準備資金の制限）

第9条 支部・部会における新規の特定費用準備資金の積み立ては、原則として2023年2月末を最終期限とし、翌期以降の新規積立は認めない。